

創刊150号記念特集

県都水戸の発展に支援を期待

「県議会議員に初当選した昭和六一年は、那珂川の大水害がありました。堤防が低かったり、無堤防のところではほとんど全部の家屋が床上浸水するなど、河川の氾濫による被害の大きさを改めて認識しました」と当時を振り返る加藤さんは、県議会議員を一六年務めた後、水戸市長に就任しました。県議会議員時代の活動で最も印象に残っているのは、那珂川の改修に奔走したことだそうです。「平成一〇年の水害のときは、川の水



水戸市長 加藤 浩一さん(右) 聞き手・小川一成情報委員

が漏れているのを消防団の人達と一緒に発見して、消防団や自衛隊、地元の人達で土のうを何千袋も積み上げて食い止めたこともあるんですよ。当時のエピソードを紹介

介しながら、「将来の都市像として人口五〇万人を想定している地方の中核都市として、水戸市の自立的発展に努力していきたい」と語られ、「茨城県が北関東の雄として努力していく中で、県の発展とあわせ、県都水戸の充実強化に県議会のご協力をいただきたい。市民生活の向上のためには公共下水道の整備がまず重要で、教育、医療の充実など、水戸市がやらなければならないことはたくさんあります。そういったことがスムーズに進むような支援をお願いします」と県議会への期待を語ってくれました。

地域の良さを見直す地域づくり



土浦商工会議所会頭 山口 雄三さん(左) 聞き手・常井洋治情報委員

「商工会議所の活動の原点は、中小企業支援と地域振興」と熱く語る思いをつがいました。

中小企業支援は、「商工会議所として会員と行政とのネットワークが要」。相談内容も複雑

様々な活動をネットワーク化して全体で一つの街の力としていくことが必要」と話されるとともに、つくばエクスプレスの開業も、脅威ながら、あえて追い風」としてとらえる。また、「県南地域は、首都圏に近いからこそ競争に勝つためには行政のサポートが必要であり、更なる常磐線の輸送力強化の後押しを」とたくさんのお話をいただきました。最後に、県議会について「現地に赴いた活動をさらに深め、地元の意見と直結するような取り組みを」と御意見をちょうだいしました。

歴史や文化伝承する場を



前鹿嶋市女性団体連絡会会長 平井 敬子さん(右) 聞き手・鈴木孝治情報委員

「苦労があればあるほど喜びは何倍にもなります。準備期間が短くても大変でしたが、大きな感動を手にしました。

最高の成果でした。前鹿嶋市女性団体連絡会会長の平井敬子さんは、二〇〇二年、カシマスタジアムで開催された

サッカーワールドカップ大会をこう振り返りました。現在、約二百人の会員が環境美化などに取り組んでいます。ワールドカップでは、一、三人の会員が花のサイクロードや賑わい広場において大きな役割を担いました。「女性の活動の場は必要と常日頃感じながら、世代交代が難しく、

サッカーワールドカップ大会をこう振り返りました。現在、約二百人の会員が環境美化などに取り組んでいます。ワールドカップでは、一、三人の会員が花のサイクロードや賑わい広場において大きな役割を担いました。「女性の活動の場は必要と常日頃感じながら、世代交代が難しく、

地域・家庭・学校を繋ぐパイプ役として



茨城県PTA連絡協議会会長 堤 千賀子さん(左) 聞き手・長谷川典子情報委員

県内各地でのPTAの実践活動に多忙な日々を過ごす堤さんは、県PTA連絡協議会の会長です。協議会は、「地域と家庭と学校の三者を繋ぐパイプ役として、子どもの健全育成や家庭での食育を訴えたり、また県行政などに保護者の立場で要望したりしています」

食育については、「家庭での食の乱れから、学校給食が子どもの体を作っているようなものです。私たちが今の親もフードストロフの時代に育っているのです」と一緒に

に食育を学ぶ必要があると思います」と語っています。県行政や県議会に対し

たり、安全マップを作ったりという、地域と繋がった活動に対する助成の充実や、市町村合併に伴い拡大したPTAに対する研修補助金等の充実を期待しています。さらに、「これからの県の条例は、特に地域の活動を推進していく人間が力を出すという方針の時には、行動を起こすための拠り所や、後押しとなるような実効力のある条例にして欲しいと思います。特に青少年に関する条例について、県や県議会には、より実践的なものとなるよう力を発揮していただけたらと思います」と結んでいただきました。